

入居相談員を配置 有老、高稼働維持に貢献

(一財)日本老人
福祉財団

一般財団法人日本老人福祉財団(東京都中央区)は介護付有料老人ホーム「ゆうゆうの里」を全国に7施設展開。約2200戸の居室数を擁し、平均入居率は約96%。高稼働率を維持する財団の入居相談について、小野本部サービス支援部部長に聞いた。



信夫ビス
小野一平
本部支援部部長

同財団は、1973年設立。日本で初めて終身利用権の仕組みを

「入居相談のプロ」
「入居相談のプロ」として専属の募集担当者を置くことで、入居検討者と信頼関係を築

「入居相談のプロ」の1つは「自立時」にどう対応するか。同施設はサークル活動が盛んで、10

は、「一般居室」から、「介護サービス提供用の居室」に住み替える。寝たきりや看取りにも柔軟に対応する。

「入居検討者のほとんどは、問い合わせ時にはサ高住や有料老人ホームの仕組みがわからない。その違いを募集担当者が丁寧に説明する。当社としては、旅行代金という『オーリンクルーシブ』に近い。自立時は元気に過ごし、介護が必要になっても安心であるとお伝えする。老後の不安をいかに取り除くかが、入居決断の鍵となる」(小野本部サービス支援部部長)

ぶ人もいるという。

同財団では、入居検討者と密にコミュニケーションをとるため、施設ごとに「募集担当者」を配置。生活相談員などを兼ねず、専任で入居相談の業務を行う。施設に長く勤める職員が選出され、1施設につき4〜5名を配置。要望に合わせて対面や電話、メールなどでアプローチをする。



「ゆうゆうの里」外観



募集担当者による入居案内

「『自立時から看取りまで対応』の1つは『自立時』にどう対応するか。同施設はサークル活動が盛んで、10

は、「一般居室」から、「介護サービス提供用の居室」に住み替える。寝たきりや看取りにも柔軟に対応する。

「入居検討者のほとんどは、問い合わせ時にはサ高住や有料老人ホームの仕組みがわからない。その違いを募集担当者が丁寧に説明する。当社としては、旅行代金という『オーリンクルーシブ』に近い。自立時は元気に過ごし、介護が必要になっても安心であるとお伝えする。老後の不安をいかに取り除くかが、入居決断の鍵となる」(小野本部サービス支援部部長)